

空手道で世界の頂点に輝く 林さん

船越義珍杯第16回少年・少女世界空手道選手権大会が10月25日、高崎アリーナ(高崎市)で行われ、12歳女子組手(1対1で対戦する形式)の部で、新屋小学校6年の林 愛莉さんが世界の頂点に立ちました。

大会前に「自分らしい攻める組手をしたい」と意気込みを語っていた林さんは、その言葉どおり小柄な体を生かし、リズムカルなステップを踏みながら素早い動きで相手の胸元に飛び込むなどの攻撃を繰り出し、世界15カ国26人が出場したトーナメントを勝ち上がりました。日本人対決となった決勝戦でも落ち着いた試合運びで勝利し、試合後には互いの健闘を称え合い抱擁を交わす姿が印象的でした。

11月7日には役場を訪れ優勝の報告をし、森平町長は「世界チャンピオンが町から出たことはうれしく町の誇りです。これからも頑張してほしい」とエールを送りました。



優勝メダルを掲げる林さん(左)と自ら撮影した世界大会時の写真を贈った森平町長



鋭い表情で試合に挑む



「優勝できてうれしい。自分らしい組手ができた」と喜びを語る林さん



— 空手道との出会いは？ —

父も姉も経験者で、5歳の時、見ていてかっこよかったので、自分からやりたいとお願いしました。

— 苦しいときは？ —

厳しい練習に耐えることです。厳しくも愛情ある先生の指導を受け、精神面と技術面の両方が向上していると感じます。

— 練習はどうしていますか？ —

週5日、放課後に高崎市内の道場に通い、土日は、練習試合や遠征に出掛けます。毎朝、登校前には柔軟や鏡の前で動きを確認することが日課です。

— 家族の皆さんへ一言 —

父は、遠征に連れて行ってくれ、母は、いつも体調管理をしてくれます。姉も練習相手になってくれて、家族には感謝しています。

— 好きな言葉は？ —

担任の先生が教えてくれた「夢を語り、努力する」です。

— 今後の目標は？ —

3年後に開かれる世界大会で再び世界チャンピオンに輝くことです。

— 競技の中で楽しいことは？ —

一番は勝つこと。最近は友達ができることもうれしいです。

秋の叙勲 栄えある受章 おめでとうございます

きよくじつしょうじゅしょう

旭日小綬章

【文化財保護功労】須田賢司さん



11月3日付けで各分野で優れた功績を残した人に贈られる「秋の叙勲」が発表され、名誉町民の須田賢司さん(小幡)が受章しました。

◇主な経歴

祖父の代から続く木工一家に生まれ、昭和48年から父である須田桑翠さんに師事し指物技法を習得、母方の祖父からは漆芸を学ばれました。平成26年には重要無形文化財「木工芸」保持者(人間国宝)に認定されています。現在は、若手工芸家の素養育成を図る目的で「木工藝学林 清雅舎」を主宰、スウェーデンなどからの研修生を受け入れるなど海外交流活動も積極的に行い、自身の技術や知識を次世代に伝えるため、さまざまな活動を行っています。

◇喜びの声

「今回の受章は支えてくださった方々や家族のおかげであると深く感謝しています。これからも若手を応援していくこと、そしてそれを励みに自身も頑張っていこうと決意を新たにしました」

公益のために寄付し紺綬褒章を受章 柳沢さん

「かんらふるさと大使」で日本画家の柳沢正人さん(東京都世田谷区)が、昨年ご自身で制作された絵画を町に寄付された功績により国から紺綬褒章を授与され、10月23日に森平町長が褒章と章記(証書)の伝達を行いました。

柳沢さんは令和5年7月、町の芸術文化振興に役立ててもらいたいと町にゆかりのある絵画『緑陰楽山園』『チェルタルドの風』『チェルタルドの午後』『チェルタルドの夢』の4点を寄付されました。それら4点を含む柳沢さんの作品は、長岡今朝吉記念ギャラリー(小幡)に収蔵されています。



柳沢さん(右)のアトリエで褒章・章記を伝達

誰もが楽しめるスポーツ ボッチャを体験

ボッチャ体験イベントが11月17日に甘楽中学校体育館で開催され、約70人が参加しました。

「ボッチャ」は、パラリンピックの正式種目で、ボールを投げてターゲットのボールにより近づけたチームが勝利するというシンプルなルールながら戦略や技術が求められる競技です。参加者は基本的なルールや投げ方について説明を受けた後、対戦形式でゲームを行い、会場内には歓声と笑顔があふれました。

スポーツ推進委員の田村博子さん(秋畑)は「狙った場所にボールを転がすことが難しかったです。仲間とコミュニケーションを取りながら作戦を立てることが重要で、だからこそおもしろいと感じました」と話しました。



「ジャック」と呼ばれる白いターゲットのボールにチームのボールを近づけます

優勝は柴田ブルズ！町夏季野球大会

第47回夏季野球大会の決勝戦が10月27日に甘楽野球場で開かれました。試合は、20区若連会が先制したものの、黒崎 忍選手の3ランホームランなどで逆転した柴田ブルズが勝利を収めました。

大会結果は次のとおりです。(敬称略)

優勝…柴田ブルズ(右写真)

準優勝…20区若連会

最優秀選手賞	黒崎 忍(柴田ブルズ)
殊勲賞	飯塚俊輝(柴田ブルズ)
敢闘賞	市川寿樹(20区若連会)



ソフトテニスで活躍！中野さん全国大会へ

第18回スポーツ少年団関東小学生ソフトテニス交流大会が9月22日、磯原地区公園テニスコート(茨城県北茨城市)で開かれました。

甘楽町ジュニアソフトテニスクラブ(外所淳也代表)の中野零空さん(新屋小・4年)が伊勢崎フレンズの川端一誠さんとペアを組み低学年男子の部で3位入賞を果たしました。

また、第42回群馬県小学生ソフトテニス研修大会が10月27日、株式会社ピーエムシー前橋総合運動公園テニスコートで開かれ、同じく中野・川端ペアが4年生以下男子の部で準優勝に輝き、3月に千葉県で開催される全国小学生大会への出場を決めました。

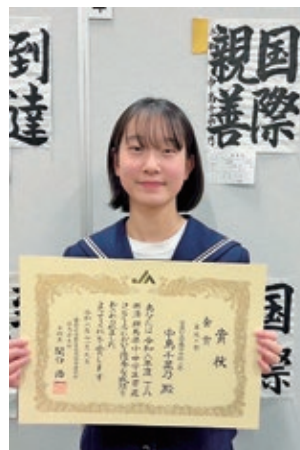


関東大会で賞状とメダルを手に笑顔を
見せる中野さん(右)と川端さん(左)

書道コンクールで入賞

令和6年度JA共済群馬県小・中学生書道コンクール・半紙の部において、中島千菜乃さん(甘楽中・2年)が金賞、浅見百咲さん(新屋小・6年)が銀賞をそれぞれ受賞しました。金賞を受賞した中島さんの作品は、全国コンクールに出品されます。

中島さんは「受賞を聞き驚いたのと同時に、とてもうれしかったです。これからも一文字一文字を大切に、心を込めて書いていきたいです」と喜びを口にし、浅見さんは「うれしいです。これからも美文字を目指し、来年は金賞を取れるよう頑張ります」と話しました。



◀中島さん



▶浅見さん

納税意識の向上に寄与 友松さん

甘楽町青色申告会会長の友松義和さん(福島)が令和6年度関東信越国税局長納税表彰を受賞し、10月29日、埼玉県で行われた表彰式に出席しました。

これは、多年にわたり申告納税制度の普及発展に努め、納税思想の向上に顕著な功績を挙げたことが評価されたもので、友松さんは「皆さんのおかげで表彰していただけることになりました。ありがとうございます。青色申告会のためにこれからも頑張ります」と受賞の喜びとともに周囲への感謝の気持ちを口にしました。



手洗いを楽しく学ぶ

めぶきの森かんら(矢野勲仁園長)で11月13日、甘楽富岡食品衛生協会(金井敏行会長)による「こども手洗い教室」が開催され、年長児46人が参加しました。

園児たちは、手洗いマイスターの資格を持つ同協会員から手洗いの大切さと正しい手洗い方法を教えてもらい、実際に手を洗うことでその効果を体感しました。高橋涼穂ちゃんは「楽しかった。上手に洗えたよ」とうれしそうに話しました。



正しい手洗いの手順を丁寧に説明され、実践する園児

学生が企画 収穫体験

甘楽町有機農業研究会(黒澤 登会長)協力のもと、町地域おこし協力隊インターン生の高瀬陽生さん(東洋大・3年)が企画した「キウイフルーツの収穫体験」が11月4日、実施されました。

首都圏の大学生8人が、農家の皆さんとの交流を楽しみながら各農園での収穫作業を体験し、参加者からは「市場に出回らないキウイのおいしさを知った」「食べ物を見る視点が変わった」「農業のみならず、町を知れて良かった」といった感想が寄せられました。

このイベントは、相互交流を図る中で農業や町の魅力などを理解してもらう貴重な機会となりました。



募金活動を実施 小幡小

小幡小学校(小須田健志校長)の児童会本部役員6人が11月21日、道の駅甘楽で社会貢献活動の一環として「赤い羽根共同募金」の募金活動を行いました。

児童たちは、手作りの募金箱を手に趣旨を説明しながら、大きな声で「お願いします!」と募金を呼び掛けました。

児童会長の森田花絵さんは「学校外での活動の難しさも感じたけれど、自分たちの活動が誰かの役に立つと思うとうれしいです」と声を弾ませました。



ポスターを掲げて募金を呼び掛ける児童たち